

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：令和元年7月～令和7年3月（5年9か月）

1. 計画期間終了時点の中心市街地の概況

本市では、令和元年6月に国の認定を受けた、高松市中心市街地活性化基本計画について、「来まい・住まい・楽しみまいーコンパクト・エコシティ たかまつー」をコンセプトに、計画に掲載された全49事業が活性化に向けた相乗効果をもたらすよう、官民が連携し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

計画に掲載された全49事業の進捗状況は、10事業が完了しており、34事業が継続実施中、5事業が未完了となっている。

令和6年度は、アフターコロナによる経済活動の活発化がみられ、インバウンドの増加やイベントの開催などによるにぎわいの回復によって、各指標とも増加傾向となってきた。

「中心市街地内の主要観光施設の年間入込客数」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、高松空港に就航している国内線の往復便や、コロナ禍により休止していた国際線4路線が令和6年にすべて運航再開となったことから、入込客数は回復しつつある。

「歩行者等通行量」は、目標値設定後の令和元年度以降、目標を達成している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により通行量は減少していたが、令和2年度以降は微増傾向にあり、新型コロナウイルス感染症拡大前の9割程度まで回復している。

「新規出店数」は、新型コロナウイルス感染症拡大以降、個人消費の持ち直しや、人流の回復により増加傾向となっている。

「中心市街地の社会動態」は、市全体の人口が減少傾向にある中でも、増加傾向となっている。地価水準が高い中でも、分譲マンションの建設が続いており、令和7年度以降にも複数の分譲マンションが竣工予定であることから、今後も増加傾向は続くと思込まれる。

今後、インバウンドの大幅な増加も予測されており、経済活動が活発化することにより、更なる中心市街地のにぎわいが創出できるよう、官民が連携を図りながら、一体となって取り組んでいく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（1）居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成30年度 （計画前年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）	令和6年度 （6年目）
人口	20,629人	20,373人	20,185人	19,964人	19,969人	20,282人	20,504人
人口増減数	△106人	△256人	△188人	△221人	5人	313人	222人
自然増減数	△194人	△209人	△223人	△186人	△239人	△259人	△240人
社会増減数	88人	△47人	35人	△35人	244人	572人	462人
転入者数	1,036人	984人	1,002人	1,104人	1,114人	1,206人	1,166人

(2) 地価

(基準日：毎年1月1日)

(単位：円/㎡)

位置	平成30年 (計画前年度)	令和元年 (1年目)	令和2年 (2年目)	令和3年 (3年目)	令和4年 (4年目)	令和5年 (5年目)	令和6年 (6年目)
磨屋町2番6外	408,000	423,000	440,000	438,000	438,000	445,000	454,000
築地町16番15	120,000	121,000	122,000	121,000	121,000	122,000	123,000
西の丸町10番6	241,000	244,000	248,000	247,000	247,000	250,000	254,000
御坊町10番16	133,000	134,000	135,000	132,000	130,000	129,000	129,000
南新町4番3	258,000	261,000	265,000	261,000	257,000	256,000	256,000
錦町一丁目210番	190,000	192,000	195,000	194,000	194,000	194,000	196,000
天神前7番4	154,000	156,000	158,000	158,000	158,000	158,000	159,000
藤塚町二丁目4番14	122,000	123,000	125,000	124,000	124,000	125,000	126,000
丸の内7番20	154,000	156,000	159,000	159,000	159,000	160,000	161,000
瓦町二丁目12番2	200,000	202,000	205,000	204,000	204,000	206,000	208,000
錦町一丁目269番1	147,000	152,000	158,000	159,000	160,000	161,000	162,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地は活性化したか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

第3期計画に登載している全49事業のうち、「新県立体育館整備事業」など10事業が完了し、ソフト事業など34事業が継続実施中、「玉藻公園整備事業」など5事業が未完了となった。

第3期計画期間が終了し、基本計画で掲げていた4つの評価指標のうち3つにおいては新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、目標値を達成することはできなかったものの、各指標において回復傾向がみられる。イベント等のソフト施策が定着してきたことや、再開発事業の完成などにより、「歩行者等通行量」は目標を達成している。

また、市全体では本格的な人口減少局面へシフトしているが、中心市街地においては、分譲マンションの建設が続いており、「中心市街地の社会動態」においては、ポジティブな傾向が出ている。

さらに、サンポート高松エリアにおいて、駅ビルや県立アリーナが新たに開業・開館し、更なるポジティブな社会動態及び入込客数の変化が期待できる。

着目すべきポイントとしては、新型コロナウイルス感染症による外出抑制等の影響により市民の価値観が大きく変化し、デジタルの急速な進展とともに、行動変容やアフターコロナにおける効果的な取組が求められていることが挙げられる。

課題としては、ハード事業の効果が各指標に影響するまでに時間を要するものがあるなど、事業を適切に評価できる仕組みになっていなかったことや、ハード事業とソフト事業を組み合わせることで効果を生み出す仕掛けが乏しかったことが挙げられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

第3期基本計画の認定から5年9か月が経過する令和6年度末までの実績として、全49事業のうち基幹事業である新県立体育館整備事業等の事業の進捗が見られたものの、34事業が継続実施中、5事業が未完了となった。目標指標の達成状況からみると、中心市街地内の主要観光施設年間入込客数については、令和2年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅に減少していたが、令和6年度は高松空港の国際線4路線すべての運航が再開されたこと等の影響もあり、入込客数は増加している。令和7年3月には県立アリーナが開館し、4月には徳島文理大学高松駅キャンパスが開学されたことにより、今後さらなる入込客数の増加が期待される。また、高松中央商店街の歩行者等通行量については、イベント等のソフト施策が定着してきたことや再開事業等により、昨年度に引き続き増加し、目標値を達成した。

新規出店数については、目標達成には至らなかったが、第2期計画期間以降、堅調に推移している。今後も引き続き新規出店予定者を後押しするよう、空き店舗を活用した出店補助や創業支援制度等の施策を進められたい。

中心市街地の社会動態については、目標達成には至らなかったが、市全体の人口が減少傾向にある中で、区域内の分譲マンションの建設及び入居が続いたこと等により、令和3年度以降は増加傾向となった。

ことடன்3駅の乗降者数については、令和2年度以降目標値を下回る状況が続いていたが、令和6年の最新値で前年比109%となり目標値を達成した。要因としては、アフターコロナにより通勤・通学者数や観光客数が回復したことが考えられる。今後はサンポート地区や商店街のにぎわい拠点施設周辺のイベント等における渋滞緩和や環境配慮の面からも公共交通機関の利用を促す等、各種施策の推進に努められたい。

今後は、インバウンドの増加や経済活動の活発化が期待されていることを踏まえ、官民が連携し、基本計画に位置付けられている中核事業の積極的な推進を行うことで、第4期においても早期に目標指標が達成され、更なる中心市街地の活性化が図られるよう取り組んでもらいたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

第5次及び第6次高松市総合計画の各施策に対する市民満足度調査（平成30～令和5年度）

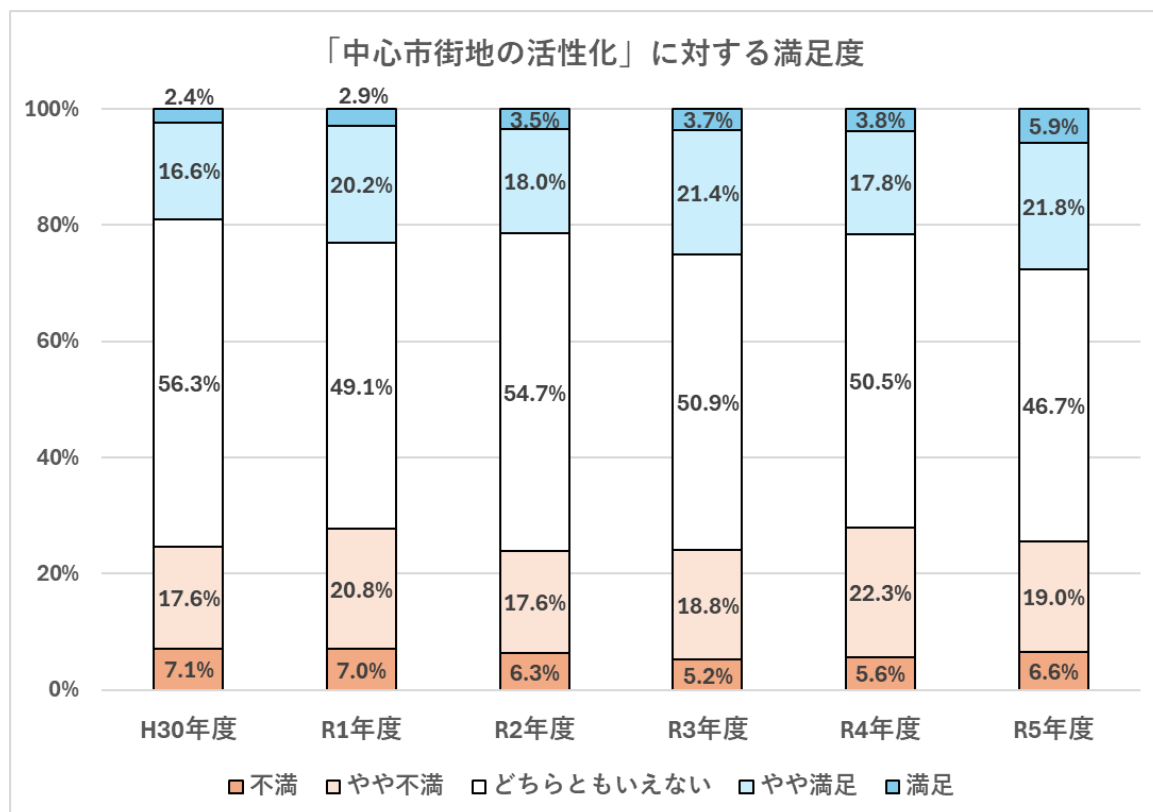
調査日：各年度の1月中旬～1月末

調査方法：各年度12月1日または1月1日の住民基本台帳から無作為抽出した満18歳以上の市民2,500人に対し、調査票を郵送で配布・回収及びインターネットにより回答

回収率（平均）：38.6%

本市では、市民の意見を今後の市政に反映させるため、高松市総合計画の基本構想で施策大綱として定めている政策、及び施策に対する満足度等を調査している。

このうち「中心市街地の活性化」の満足度については、「満足」または「やや満足」と答えた人の割合は合計20%～25%程度で横ばいとなっていたが、令和5年度は第3期計画期間中で最も多い27.7%であった。また、自由意見の中には、商店街のさらなる活性化を求める意見や、四国の玄関口であるためのまちづくりが必要の意見もあり、中心市街地全体でのにぎわいの創出や回遊性の向上が今後とも重要な課題である。



6. 今後の取組

次期計画では、アフターコロナにおける、新たな価値観に対応した活性化策として、ハード事業、ソフト事業に関わらず、各施策の投資効果を早く享受し、最大限に引き出すことを目的とした、持続的に成長する「共創型まちづくり」の仕組みを構築し、官民がセクターを超えた連携による取組を促す。

さらに、それらの取組を支える仕組みとして、データ連携基盤を活用することにより、エリアマネジメント実施のサポート及び情報発信の精度を上げていき、「訪れる中心市街地」だけでなく、「参画する中心市街地」を推進することで、これからも選ばれる中心市街地「たかまつ」を目指す。これを実現するため、以下の4つの方針を設定し、各種事業を実施する。

（方針1）もっと魅力を高めることで、みんなが訪れたい街を実現する

- ・サンポートエリアや中央商店街のそれぞれの価値を活かして魅力を高める。
- ・インバウンドや観光客の増加に対応して、市民と来訪者が交流できる機会を増やし、中心市街地全体の誘客力をさらに高める。

（方針2）もっと利便性を高めることで、みんなが回遊・滞在できる街を実現する

- ・公共交通機関と連携したウォーカブルなまちづくりによって、利便性を高める。
- ・サンポートエリアからの誘客を促す環境整備によって、中心市街地の回遊性を向上させる。

（方針3）もっと居心地をよくすることで、みんなが住みたくなる街を実現する

- ・滞留できる場所、休憩施設の充実など快適性の向上を図り、居心地を良くする。
- ・生活を支援する施設の充実や防災・減災に係る取組など安全・安心な空間を創出することによって、まちなか居住を促進する。

（方針4）官民共創・データ連携の強化により、これからも持続的に成長する街を実現する

- ・各施策の投資効果を早く享受でき、最大限に引き出すことを目的とした仕組みを構築し、官民がセクターを超えた連携による取組を促す。
- ・その取組を支える仕組みとして、データ連携基盤を活用しデータ駆動型のまちづくりを目指す。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から 目標値まで の幅の 8 割 ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
サンポートエリアにおける高次(広域)都市サービス機能の充実による誘客力の向上	中心市街地内の主要観光施設年間入込客数	2,744 千人 (H30)	2,890 千人 (R6)	2,861 千人	2,199 千人	R6.1～ R6.12	C
中心市街地の魅力発信による回遊性の向上	歩行者等通行量	92,639 人 (H29)	97,721 人 (R6)	96,705 人	127,355 人	R6.4～ R7.3	A
	新規出店数	216 店舗 (H26～H30 累計)	271 店舗 (R1.7～R7.3)	260 店舗	225 店舗	R1.7～ R6.12	B2
拠点間交流と住環境の整備による地域価値の向上	中心市街地の社会動態	886 人 (H26～H30 累計)	1,373 人 (R1.7～R7.3)	1,276 人	1231 人	R1.7.1～ R6.4.1	B2
	(参考指標) ことでん3駅の乗降客	31,751 人 (H29)	32,057 人 (R6)	31,996 人	32,270 人	R6.1～ R6.12	A

<達成状況の分類>

A : 目標達成 (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)

a : 目標達成 (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

B1 : 基準値から目標値までの幅の 8 割ラインを超えている (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)

b1 : 基準値から目標値までの幅の 8 割ラインを超えている (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

B2 : 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の 8 割ラインには及ばない (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)

b2 : 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の 8 割ラインには及ばない (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

C : 基準値に及ばない (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)

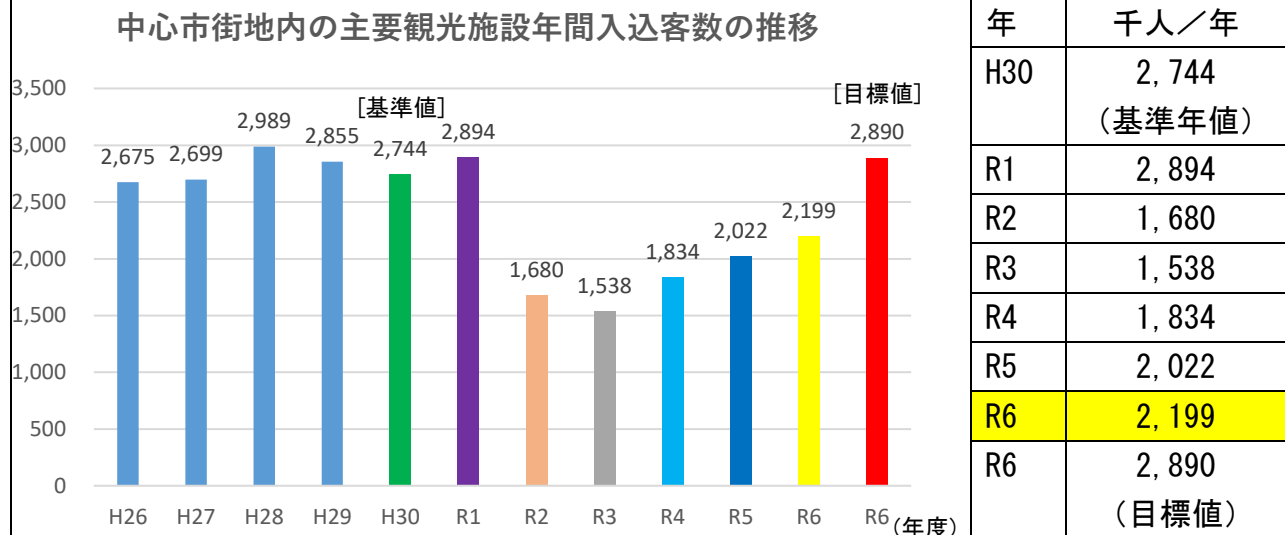
c : 基準値に及ばない (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「中心市街地内の主要観光施設年間入込客数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方基本計画P94～P97参照

●調査結果と分析



*高松市美術館はH27年1月14日～H28年3月25日の間、改修工事のため長期休館

※調査方法：各施設への聞き取り

※調査月：各年1月～12月の施設利用者数

※調査主体：高松市

※調査対象：主要観光施設4か所（高松シンボルタワー、玉藻公園、高松市美術館、香川県立ミュージアム）で計測

(単位：人)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
高松シンボル タワー	2,316,000	2,381,000	1,408,000	1,303,000	1,449,000	1,577,000	1,653,000
玉藻公園	199,677	247,050	93,555	78,741	182,692	233,274	255,256
高松市美術館	114,228	143,196	138,501	121,084	143,039	138,912	193,159
香川県立ミ ュージアム	113,665	122,944	39,936	34,929	59,162	72,959	97,866
合計	2,743,530	2,894,190	1,679,992	1,537,754	1,833,893	2,022,145	2,199,281

〈分析内容〉

中心市街地内の主要観光施設年間入込客数の増加に向けた各事業については、概ね計画期間内に完了した。

コロナ禍により令和2年度から令和3年度にかけて入込客数が大幅に減少したものの、令和4年度以降は次第に回復傾向となっている。高松空港に就航している国内線の往復便や、国際線4路線がすべて運航再開となったことが主な要因であると考えられる。しかしながら、計画期間終了時点においてコロナ禍前の水準に戻っているとはいえず、目標達成には至らなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

1-① 新県立体育館整備事業（香川県）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【済】
事業概要	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートやＭＩＣＥなど、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設としての機能を備えた体育館を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】３２，６４７人 【最新値】１０，６０６人 令和７年２月２４日開館～令和７年３月末
達成した（出来なかった）理由	令和６年１１月２９日に建物が竣工。備品等の搬入など開館準備期間を経て、令和７年２月２４日、香川県立アリーナとして開館。事業は完了したものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートやＭＩＣＥなど、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設として整備しており、広域圏からの誘客力向上につながっている。
事業の今後について	今後は、中四国最大級の約１万人を収容可能なメインアリーナのほか、サブアリーナ、武道施設、会議室等を備えた県立アリーナを管理運営し、コンサートやＭＩＣＥ、プロスポーツや大規模なスポーツ大会等の開催により、交流人口の拡大やにぎわいづくりにつなげる。

1-② 高松駅周辺開発事業（四国旅客鉄道株式会社）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【済】
事業概要	交通結節点である高松駅周辺において集客機能のあるにぎわい施設を整備し、利便機能の拡充を図ることで香川県内外からの広域的な誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】５４，２５０人 【最新値】９５，５８５人 令和６年３月２２日開館～令和７年３月末
達成した（出来なかった）	令和６年３月２２日に新高松駅ビル「ＴＡＫＡＭＡＴＳＵ ＯＲ ＮＥ（タカマツオルネ）」が開業。事業は完了し、計画期間中に

理由	目標達成できた。
計画終了後の状況及び事業効果	新高松駅ビル「TAKAMATSU ORNE（タカマツオルネ）」の開業及び施設内外でのイベントの実施により、継続的な集客を実現するための販売促進及び中心市街地等との連携に繋がるにぎわいを創出した。また、高松駅ビル周辺における放置自転車等の対策に関する協定を高松市長（高松市交通政策課）と締結し、放置自転車等に対する警告・移送等の措置に関する標識を設置したことで、一定の効果を果たした。
事業の今後について	継続的な集客を実現するための販売促進 中心市街地等との連携、違法駐輪対策

1-③ ART SETOUCHI（瀬戸内国際芸術祭）（瀬戸内国際芸術祭実行委員会）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	3年に1回の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」のほか、芸術祭開催年以外でイベント等により瀬戸内海の魅力発信・誘客の活動を実施するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国際文化芸術発信拠点形成事業（文部科学省）（平成30年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】4,396人 【最新値】（72万人（2022来場者）-104万人）×22.2%×60% ÷△42,624人 △42,624人×69.1%73.2%×（1.725-1）÷△15,631人（目標未達成）
達成した（出来なかった）理由	「瀬戸内国際芸術祭2022」を開催し、約72万人の来場者があったものの、コロナ禍での開催であったことから、目標達成には至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	「瀬戸内国際芸術祭2022」を開催し、約72万人の来場者があった。また、高松港周辺で屋外作品の継続公開を実施している。
事業の今後について	「瀬戸内国際芸術祭2025」を開催するほか、引き続き、これまでに蓄積されたアートの資源を活用したアートイベント等を実施する。

●今後の対策

本計画の主要事業である「高松駅周辺開発事業」「新香川県立体育館整備事業」について、計画期間内に事業が完了しており、令和6年に新高松駅ビル「TAKAMATSU ORNE（タカマツオルネ）」が開業、令和7年には「香川県立アリーナ」が開館するなど、サンポート地区において複数の拠点施設が誕生し、中心市街地との連携に繋がるにぎわいを創出した。同じく

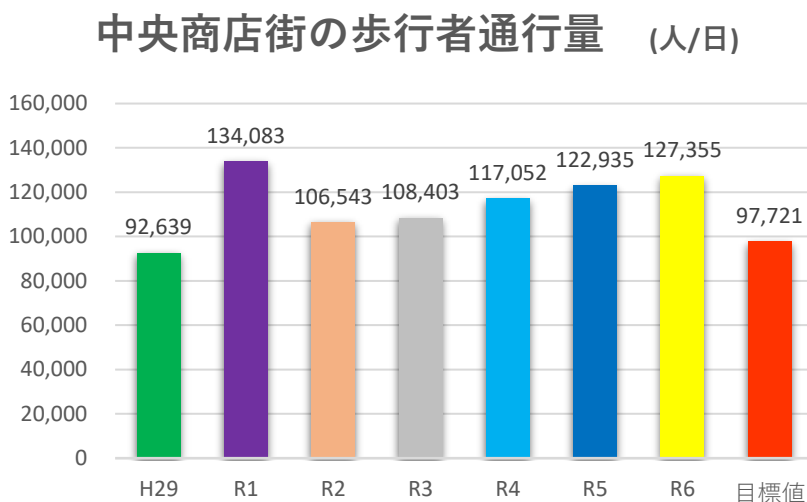
主要事業である「ART SETOUCHI（瀬戸内国際芸術祭）」についても継続的に実施しており、県内外から多くの来場者が訪れるイベントとなっている。

今後も引き続き、回復が期待されるインバウンド・観光需要に対応していくことに加え、多様なニーズを持った人々が訪れたいと思える高次広域都市サービス機能を提供する場を創出し、広域圏から中心市街地を訪れる機会づくりを行っていく。

(2)「中央商店街における歩行者等通行量」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方基本計画P98～P104参照

●調査結果と分析



年	人／日
H29	92,639 (基準年値)
R1	134,083
R2	106,543
R3	108,403
R4	117,052
R5	122,935
R6	127,355
R6	97,721 (目標値)

* R1年度は下半期よりカメラ画像解析による計測を開始したため、下半期数値の平均としている。

H30年度のデータがないため、H29年度を基準値とする。

※調査方法：中央商店街の15地点で自動計測（カメラ画像解析）を実施

※調査月：各年度4月1日～3月31日

※調査主体：高松市・高松中央商店街振興組合連合会

※調査対象：毎日（10時から19時まで）の中央商店街15地点の歩行者（自転車を含む。）



〈分析内容〉

歩行者通行量の増加に向けた各種事業は、概ね計画期間内に完了した。

歩行者等通行量は、令和元年10月から、カメラによる機械計測を行っており、常時計測が可能となっている。令和2年度からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、通行量が減少していたが、イベント等のソフト施策が定着してきたことや、再開発事業の完成などにより、目標値を達成した。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

2-① 新県立体育館整備事業（香川県）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【済】
事業概要	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートやMICEなど、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設としての機能を備えた体育館を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】514人 【最新値】167人 令和7年2月24日開館～令和7年3月末
達成した（出来なかった）	令和6年11月29日に建物が竣工。備品等の搬入など開館準備期間を経て、令和7年2月24日、香川県立アリーナとして開

理由	館。事業は完了したものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートやM I C E など、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設として整備しており、広域圏からの誘客力向上につながっている。
事業の今後について	今後は、中四国最大級の約1万人を収容可能なメインアリーナのほか、サブアリーナ、武道施設、会議室等を備えた県立アリーナを管理運営し、コンサートやM I C E、プロスポーツや大規模なスポーツ大会等の開催により、交流人口の拡大やにぎわいづくりにつなげる。

2-② 高松丸亀町子育て支援施設整備事業（高松まちづくり株式会社・NPO法人わははネット）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	再開発施設内に子育て支援施設を整備し、NPO法人による運営を行うことで子育て世代の女性が子どもを産みやすく、働きやすい環境を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】14人 【最新値】(23人/日-29人/日) × 0.6 × 2 (往復) ÷ △7人/日 (目標未達成)
達成した（出来なかった）理由	子育て支援施設は令和4年2月1日に入居済みである。事業は完了し、一定の効果は発現しているものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	大工町ものづくり育成店舗整備事業によって開業した「讃岐おもちゃ美術館」と連携し、従来、中心市街地への集客が弱かった子育て世代を商店街に呼び込む効果があった。
事業の今後について	令和4年4月25日開業の「讃岐おもちゃ美術館」と連携し、相乗効果を狙う。

2-③ 大工町立体駐車場整備事業（高松まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	高松市大工町・磨屋町再開発事業で整備された施設における床の一部を取得し、隣接商店街のための利用客用駐車場として運営。

国の支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（経済産業省）（令和3年度） 中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（令和3年度） 特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】455人 【最新値】144台×1.67回×1.3人/トリップ≒313人（目標未達成）
達成した（出来なかった）理由	建物全体としては令和4年1月31日に竣工、駐車場部分については令和3年12月22日に開業した。事業は完了し、一定の効果は発現しているものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	当該事業は当初の計画通りに進捗し、建て替え前の老朽化した駐車場と比べ、収容台数が増え、車路も広がっていることから、安全性も向上した。 電気自動車用の充電設備の設置、長時間割引の導入など、利用者の利便性も向上し、商店街への集客に寄与している。
事業の今後について	利用の伸びは、計画をやや上振れ。前年まで少なかった夜18時以降の利用が令和5年12月には増加し、金曜日、土曜日については夜9時頃まで満車が見られるようになった。料金体系の改正など混雑緩和のための措置を検討する必要がある。

2-④ 大工町ものづくり育成店舗整備事業（高松まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	再開発施設内に香川県のものづくりを担うデザイナーやクリエイターが集う施設を整備し、県外や海外から訪れる観光客に、香川のものづくりの体験や伝統産業の逸品などを提供することで、新たな魅力を創出し、商店街への来街意欲を促進させるもの。
国の支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（経済産業省）（令和3年度～4年度） 中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（令和3～4年度） 特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（令和3～4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】302人 【最新値】218人/日÷1105.72㎡≒0.20人/㎡・日

成状況	$0.20 \text{ 人/m}^2 \times (1105.72 \text{ m}^2 \times 0.7) \times 0.6 \times 2 \text{ (往復)} \times (301/365 \text{ 日}) \div 153 \text{ 人}$ (目標未達成)
達成した（出来なかった）理由	令和5年4月に開業1周年を迎えた。令和6年度より高松市のふるさと納税で讃岐おもちゃ美術館チケットが返礼品で選べるようになっている。事業は完了し、一定の効果は発現しているものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	従来、商店街で集客が弱かった、子育て世代と観光客を迎え入れる施設として開業し、従来は商店街を訪れることが少なかった客層を開拓している。 遠足の受け入れなど団体客の導入の他、一般の営業時間とは別に、企業研修の会場としての利用や、普段来ることができない病児とその家族だけのための貸し切り無料開放など、利用が広がっている。
事業の今後について	小学校の遠足など、団体客の受け入れにより、利用拡大を図る。

2-⑤ 高松市創業支援等事業（高松市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	高松商工会議所や金融機関等の地域の創業支援事業者と連携して創業者や創業希望者を支援するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】222人 【最新値】R1年創業者数135人 R2年創業者数165人 R3年創業者数174人 R4年創業者数182人 R5年創業者数190人 $169 \text{ 名/年} \times 6 \text{ 年 (計画期間)} \times 23.3\% \times 13.4\% \times 11.1\% \div 4 \text{ 店舗}$ $3 \text{ 店舗} \times 108 \text{ 人/店舗} \times 0.6 \times 2 \text{ (往復)} \times 312/365 \text{ 日} \div 443 \text{ 人}$ (目標達成)
達成した（出来なかった）理由	令和2年2月に創業支援事業者と共同で開設した相談窓口である「たかまつ創業サポートセンター」を中心に、連携して創業者や創業希望者等を支援している。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。
計画終了後の状況及び事業効果	創業希望者の掘り起こしや支援機関の認知度向上に寄与し、市内での起業・創業者の増加に一定の効果を果たしている。
事業の今後について	引き続き、地域の創業支援事業者と連携して、創業者や創業希望者等への支援を行い、創業相談件数の増加を図る。

2-⑥ 南部3町商店街活性化マチカドプラザ事業(株式会社高松南部3町商店街プロジェクト)

事業実施期間	平成30年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	南部3町商店街の活性化に向けて、商店街の情報発信、各種情報発信ツールによる各店舗情報の提供などを行い、情報発信力の強化を図るとともに、4町パティオの有効活用を検討するなど、利用促進と回遊性を高めるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】778人（年間1店舗、計画期間で6店舗の新規出店があると想定） 【最新値】R1年8店舗 R2年10店舗 R3年14店舗 R4年16店舗 R5年18店舗 R6年15店舗（6月8店舗＋12月7店舗）の新規出店 $81\text{店舗} \times 108\text{人/店舗} \times 0.6 \times 2 \text{（往復）} \div 10,497\text{人}$ （目標達成）
達成した（出来なかった）理由	シーズンごとのプロモーション企画を柱に、動画など新しい要素も取り入れた新しい商店街の情報にも取り組んだ。専門学校や学生主体のイベントなどとも連携し、若い世代（特に学生）との取り組みにも力を入れた。また、商店街の新たな活性化策の取りまとめも視野に入れ、組合員などの意見交換・交流の場などを再開した。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。
計画終了後の状況及び事業効果	商店街の話題性が着実に浸透してきており、タイアップを始め、外部から商店街へ様々なアプローチがなされるようになってきた。商店街への出店意向も増加傾向のようで、問い合わせも増えてきた。
事業の今後について	引き続き、商店街の企画・プロモーションを柱としつつ、長期的な視点での活性化へ向けて、新たな事業への取り組みも含め、次の活性化プランのとりまとめを進めていく。 限られたリソースの中で無理なく事業を実施していくため、持続可能性を重視して取り組んでいく。

2-⑦ 高松市中央商店街空き店舗活用事業（高松市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	中央商店街の区域に所在する空き店舗に新たに出店する事業者に対し、改装費の一部を補助するもの。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 1, 166人（計画期間内に9店舗の新規出店を想定） 【最新値】 R1年度10店舗、R2年度8店舗 R3年度7店舗 R4年度10店舗 R5年度10店舗 R6年度5店舗 50店舗×108人/店舗×0.6×2（往復）≒6,480人（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	改装費の一部助成を継続して実施し、高松中央商店街の空き店舗の利用促進を図るとともに、高松中央商店街のにぎわいを創出した。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。
計画終了後の状況及び事業効果	空き店舗率の改善に寄与するとともに、高松中央商店街のにぎわい創出に一定の効果を果たしている。
事業の今後について	引き続き、高松中央商店街の空き店舗を対象とする新規出店補助制度を周知啓発し、空き店舗の解消が進展するよう、継続して事業を実施する。

2-⑧ 高松丸亀町商店街情報発信事業（高松丸亀町商店街振興組合）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	外国人観光客などの来訪者に対して商店街の店舗情報やイベント情報などローカルな情報に加え、中央商店街全体の情報や広域的な観光情報等を提供し、利用促進と回遊性の向上を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 1, 166人（計画期間内に9店舗の新規出店を想定） 【最新値】 R1年度10店舗、R2年度8店舗 R3年度7店舗 R4年度10店舗 R5年度10店舗 R6年度5店舗 50店舗×108人/店舗×0.6×2（往復）≒6,480人（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	商店街イベントや個店のセール情報などの必要な情報を、webサイトや商店街内のデジタルサイネージを使って発信している。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。
計画終了後の状況及び事業	商店街での各種イベントやセール情報の発信により、中心商店街の通行量は、令和元年に想定した、令和6年度段階での目標

効果	値を大きく上回っている。
事業の今後について	引き続きイベント情報等の発信を行う。

2-⑨ 高松駅周辺開発事業（四国旅客鉄道株式会社）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【済】
事業概要	交通結節点である高松駅周辺において集客機能のあるにぎわい施設を整備し、利便機能の拡充を図ることで香川県内外からの広域的な誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】１７８人 【最新値】３１４人 令和６年３月２２日開館～令和７年３月末
達成した（出来なかった）理由	令和６年３月２２日に新高松駅ビル「TAKAMATSU ORNE（タカマツオルネ）」が開業。事業は完了し、計画期間中に目標達成できた。
計画終了後の状況及び事業効果	新高松駅ビル「TAKAMATSU ORNE（タカマツオルネ）」の開業及び施設内外でのイベントの実施により、継続的な集客を実現するための販売促進及び中心市街地等との連携に繋がるにぎわいを創出した。また、高松駅ビル周辺における放置自転車等の対策に関する協定を高松市長（高松市交通政策課）と締結し、放置自転車等に対する警告・移送等の措置に関する標識を設置したことで、一定の効果を果たした。
事業の今後について	継続的な集客を実現するための販売促進 中心市街地等との連携、違法駐輪対策

2-⑩ ART SETOUCHI（瀬戸内国際芸術祭）（瀬戸内国際芸術祭実行委員会）

事業実施期間	平成２２年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和６年度〕
事業概要	３年に１回の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」のほか、芸術祭開催年以外でイベント等により瀬戸内海の魅力発信・誘客の活動を実施するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国際文化芸術発信拠点形成事業（文部科学省）（平成３０年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】１４人 【最新値】 $\triangle 15,631 \text{ 人} \div 365 \text{ 日} \times 0.6 \times 2 \text{ 往復} \div \triangle 51 \text{ 人}$ （目標未

成状況	達成)
達成した（出来なかった）理由	「瀬戸内国際芸術祭 2022」を開催し、約 72 万人の来場者があったものの、コロナ禍での開催であったことから、目標達成には至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	「瀬戸内国際芸術祭 2022」を開催し、約 72 万人の来場者があった。また、高松港周辺で屋外作品の継続公開を実施している。
事業の今後について	「瀬戸内国際芸術祭 2025」を開催するほか、引き続き、これまでに蓄積されたアートの資源を活用したアートイベント等を実施する。

●今後の対策

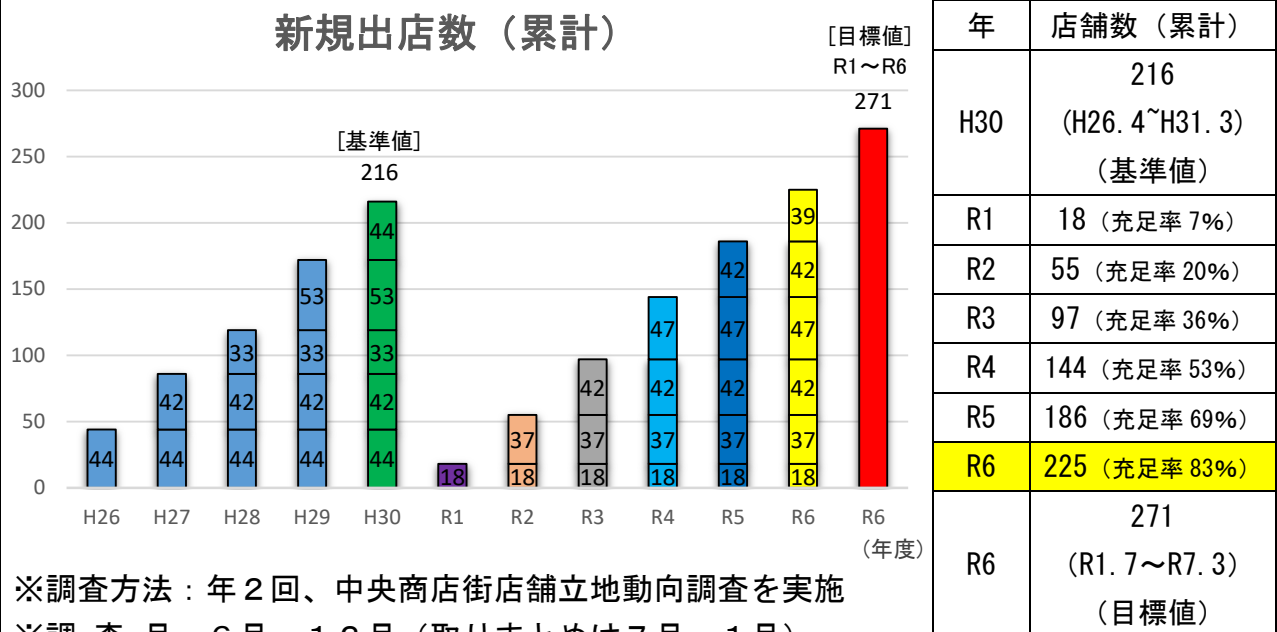
今後、区域内のマンション完成による居住者や出張・旅行者などの来街者の通行が見込まれるほか、後述する市街地再開発事業の完了、更には、高松空港国際線の全線再開によるインバウンドが大幅に増加することが予測されており、これらの経済活動の活発化による、集客の拡大が期待できる。

また、アフターコロナにおける、サンポートエリアの集客力と中央商店街の商業ポテンシャルの相乗効果を図るため、よりリアルな体験価値を創出するイベント・観光を通じてサンポートエリアと中央商店街の回遊性を高めていく。特に、コンテンツが多数ある商店街では、歩行者通行量・新規出店数ともに増加傾向に転じているため、回遊・滞在できる環境の整備を推進する。

(3)「新規出店数」(目標の達成状況【B2】)

※目標設定の考え方基本計画P105～P106参照

●調査結果と分析



〈分析内容〉

新規出店数の増加に向けた各種事業については、概ね予定通り完了している。

新規出店数について、5年間の累計値は225店舗となり、目標達成には至らなかったものの、第3期計画期間はコロナ禍前であった第2期計画期間とほぼ変わらない水準で推移した。アフターコロナによって、出控え傾向であった人流が回復し、夜の飲食店利用や高松空港の国際線運航再開による訪日客の増加といった個人消費の持ち直し傾向が要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

3-① 南部3町商店街活性化マチカドプラザ事業(株式会社高松南部3町商店街プロジェクト)

事業実施期間	平成30年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和6年度]
事業概要	南部3町商店街の活性化に向けて、商店街の情報発信、各種情報発信ツールによる各店舗情報の提供などを行い、情報発信力の強化を図るとともに、4町パティオの有効活用を検討するなど、利用促進と回遊性を高めるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】6店舗（年間1店舗、計画期間で6店舗の新規出店があると想定） 【最新値】81店舗（目標達成） R1年8店舗 R2年10店舗 R3年14店舗 R4年16店舗 R5年18店舗 R6年15店舗（6月8店舗＋12月7店舗）の新規出店
達成した（出来なかった）理由	シーズンごとのプロモーション企画を柱に、動画など新しい要素も取り入れた新しい商店街の情報にも取り組んだ。専門学校や学生主体のイベントなどとも連携し、若い世代（特に学生）との取り組みにも力を入れた。また、商店街の新たな活性化策の取りまとめも視野に入れ、組合員などの意見交換・交流の場などを再開した。事業は継続しており、計画期間中に目標達成できた。
計画終了後の状況及び事業効果	商店街の話題性が着実に浸透してきており、タイアップを始め、外部から商店街へ様々なアプローチがなされるようになってきた。商店街への出店意向も増加傾向のようで、問い合わせも増えてきた。
事業の今後について	引き続き、商店街の企画・プロモーションを柱としつつ、長期的な視点での活性化へ向けて、新たな事業への取り組みも含め、次の活性化プランのとりまとめを進めていく。 限られたリソースの中で無理なく事業を実施していくため、持続可能性を重視して取り組んでいく。

3-② 高松市中央商店街空き店舗活用事業（高松市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	中央商店街の区域に所在する空き店舗に新たに出店する事業者に対し、改装費の一部を補助するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】9店舗 【最新値】R1年度10店舗、R2年度8店舗 R3年度7店舗 R4年度10店舗 R5年度10店舗 R6年度5店舗 8店舗/年×(1.2-1)×5年9ヶ月（計画期間）÷9店舗（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	改装費の一部助成を継続して実施し、高松中央商店街の空き店舗の利用促進を図るとともに、高松中央商店街のにぎわいを創出した。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。

計画終了後の状況及び事業効果	空き店舗率の改善に寄与するとともに、高松中央商店街のにぎわい創出に一定の効果を果たしている。
事業の今後について	引き続き、高松中央商店街の空き店舗を対象とする新規出店補助制度を周知啓発し、空き店舗の解消が進展するよう、継続して事業を実施する。

3-③ 高松丸亀町商店街情報発信事業（高松丸亀町商店街振興組合）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和6年度]
事業概要	外国人観光客などの来訪者に対して商店街の店舗情報やイベント情報などローカルな情報に加え、中央商店街全体の情報や広域的な観光情報等を提供し、利用促進と回遊性の向上を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】9店舗 【最新値】R1年度10店舗、R2年度8店舗 R3年度7店舗 R4年度10店舗 R5年度10店舗 R6年度5店舗 $8\text{店舗/年} \times (1.2-1) \times 5\text{年9ヶ月 (計画期間)} \div 9\text{店舗 (目標達成)}$
達成した（出来なかった）理由	商店街イベントや個店のセール情報などの必要な情報を、webサイトや商店街内のデジタルサイネージを使って発信している。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。
計画終了後の状況及び事業効果	商店街での各種イベントやセール情報の発信により、中心商店街の通行量は、通行量は令和元年に想定した、令和6年度段階での目標値を大きく上回っている。
事業の今後について	引き続きイベント情報等の発信を行う。

3-④ 大工町ものづくり育成店舗整備事業（高松まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	再開発施設内に香川県のものづくりを担うデザイナーやクリエイターが集う施設を整備し、県外や海外から訪れる観光客に、香川のものづくりの体験や伝統産業の逸品などを提供することで、新たな魅力を創出し、商店街への来街意欲を促進させるもの。
国の支援措置名及び支援期	中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（令和3～4年度）

間	特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（令和3～4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】6店舗（年間1店舗、計画期間で6店舗の新規出店があると想定） 【最新値】—（目標未達成）
達成した（出来なかった）理由	令和4年4月に開業。令和5年4月に開業1周年を迎えた。今年度より高松市のふるさと納税で讃岐おもちゃ美術館チケットが返礼品で選べるようになっている。事業は継続しており、一定の取組が推進されているものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	従来、商店街で集客が弱かった、子育て世代と観光客を迎え入れる施設として開業し、従来は商店街を訪れることが少なかった客層を開拓している。 遠足の受け入れなど団体客の導入の他、一般の営業時間とは別に、企業研修の会場としての利用や、普段来ることができない病児とその家族だけのための貸し切り無料開放など、利用が広がっている。
事業の今後について	小学校の遠足など、団体客の受け入れにより、利用拡大を図る。

3-⑤ 高松市創業支援等事業（高松市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】 〔認定基本計画：令和元年度～令和6年度〕
事業概要	高松商工会議所や金融機関等の地域の創業支援事業者と連携して創業者や創業希望者を支援するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】2店舗 【最新値】R1年創業者数135人 R2年創業者数165人 R3年創業者数174人 R4年創業者数182人 R5年創業者数190人 169名/年×6年（計画期間）×23.3%×13.4%×11.1%÷4店舗
達成した（出来なかった）理由	令和2年2月に創業支援事業者と共同で開設した相談窓口である「たかまつ創業サポートセンター」を中心に、連携して創業者や創業希望者等を支援している。
計画終了後の状況及び事業効果	創業希望者の掘り起こしや支援機関の認知度向上に寄与し、市内での起業・創業者の増加に一定の効果を果たしている。事業は継続的に実施しており、計画期間中の目標達成に至っている。

事業の今後について	引き続き、地域の創業支援事業者と連携して、創業者や創業希望者等への支援を行い、創業相談件数の増加を図る。
-----------	--

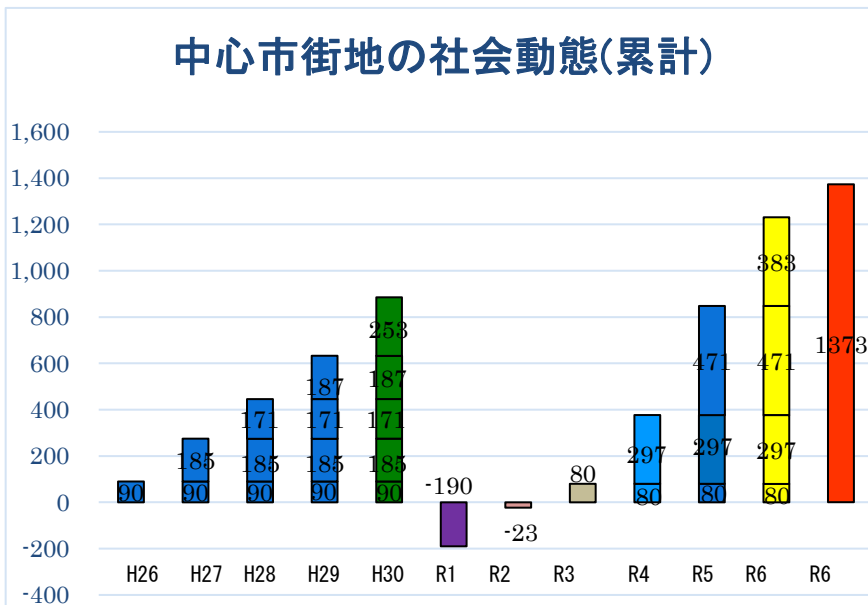
●今後の対策

中心市街地においては、マンション建設による居住誘導が進んでおり、区域内の個人消費の増加に伴って幅広い業種が出店する機会が増えている。また、夜の飲食店などナイトタイムエコノミーおよび訪日客による消費の回復も新規出店にとっては追い風といえる。近年の原材料の高騰や物価上昇の影響は依然として残ることが予想されるものの、今後も官民が連携し、新規店舗の出店および安定した店舗経営の継続ができるよう、各種施策の実施に努めていく。

(4)「中心市街地の社会動態」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方基本計画P107～P109参照

●調査結果と分析



年	人（累計）
H30	886 (H26.4~H31.3) (基準値)
R1	△190 (充足率-14%)
R2	△23 (充足率-2%)
R3	80 (充足率 6%)
R4	377 (充足率 27%)
R5	848 (充足率 62%)
R6	1231 (充足率 89%)
R6	1,373 (R1.7~R7.3) (目標値)

※調査方法：中心市街地内における住民基本台帳登録人口

※調査月：4月1日時点調査、同月取りまとめ

R1年度は7月1日～R2年4月1日

※調査主体：高松市

※調査対象：中心市街地内の居住者

〈分析内容〉

中心市街地の社会動態の増加に向けた各種施策は概ね計画期間内に完了した。

市全体の人口が減少傾向にある中、中心市街地の社会動態は令和元年度に減少となったものの、令和2年度以降は増加傾向となった。地価水準が高い中でも、区域内の分譲マンションの建設および入居が続いていたことが要因であると推察される。第3期計画期間中の累計値は1,231人の増加であり、目標値の達成には至らなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

4-① 高松市大工町・磨屋町地区第一種市街地再開発事業(大工町・磨屋町地区市街地再開発組合)

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	中央商店街の一つである丸亀町商店街C街区の東西にある大工町・磨屋町地区で都市型住宅、商業施設、立体駐車場を備えた再開発施設を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	スマートウェルネス住宅等推進事業（地域生活拠点型再開発事業）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）

事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 83人 【最新値】 55戸×2.2/世帯×75%≒91人（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	再開発組合が、引き続き磨屋町街区の施設建築物新築工事を進め、令和5年2月に完了した。事業は完了し、計画期間中に目標達成できた。
計画終了後の状況及び事業効果	多世代が居住する共同住宅の整備によるまちなか居住の推進、「讃岐おもちゃ美術館」によるにぎわいの創出、「丸亀町くるりん駐車場」によるアクセス性の向上など、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	多世代が居住する共同住宅の整備によるまちなか居住の推進、「讃岐おもちゃ美術館」によるにぎわいの創出、「丸亀町くるりん駐車場」によるアクセス性の向上など、中心市街地の活性化に期待できる。

4-② 高松市常磐町地区優良建築物等整備事業（阪急阪神不動産株式会社・四国旅客鉄道株式会社）

事業実施期間	平成31年度～令和5年度【済】
事業概要	中央商店街の一つである常磐町商店街のジャスコ跡地において、医療施設、子育て支援施設、共同住宅を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	スマートウェルネス住宅等推進事業（地域生活拠点型再開発事業）（国土交通省）（平成31年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 167人 【最新値】 98戸×2.2世帯×75%≒162人 （目標未達成）
達成した（出来なかった）理由	事業者が、磨屋町街区の施設建築物新築工事を進め、令和5年9月に完了した。事業は完了したもの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	共同住宅の完成により、多世代が居住する街なか居住の推進はもとより、通行者の増加や消費の喚起につながるなど、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	共同住宅の完成により、多世代が居住する街なか居住の推進はもとより、通行者の増加や消費の喚起につながるなど、中心市街地の活性化にも期待される。

4-③ フラット35活用事業（高松市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	高松市立地適正化計画で定める中心市街地区域を包含する居住誘導区域の外から、区域内へ住み替えた世帯に、住宅の建築・購入等費用の一部助成及び住宅金融支援機構と提携し、住宅ローン

	フラット35Sの金利の低減（当初5年間△0.25%等）を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】104人 【最新値】R1年実績0件 R2年実績1件 R3年実績0件 R4年実績3件 R5年実績1件 R6年実績0件 5件×2.2人/世帯≒11人（目標未達成）
達成した（出来なかった）理由	近年の原材料の高騰や物価上昇の影響から、建築コスト上昇により、本事業の活用は厳しい状況となっている。事業は継続しており、一定の取組が推進されているものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	市全体の人口が減少傾向にある中でも、中心市街地内の社会動態は増加傾向となっているが、近年の原材料の高騰や物価上昇の影響から、建築コスト上昇により、本事業の活用は厳しい状況となっている。
事業の今後について	住宅フェアの開催など、継続的な周知啓発を行い、より多くの方に制度を利用してもらえるよう努めていく。

●今後の対策

市全体の人口が減少傾向にある中でも中心市街地の社会動態は増加傾向となっている。中心市街地において、令和7年度以降にも複数の分譲マンションが竣工予定であることから、今後も増加傾向は続くと思込まれる。

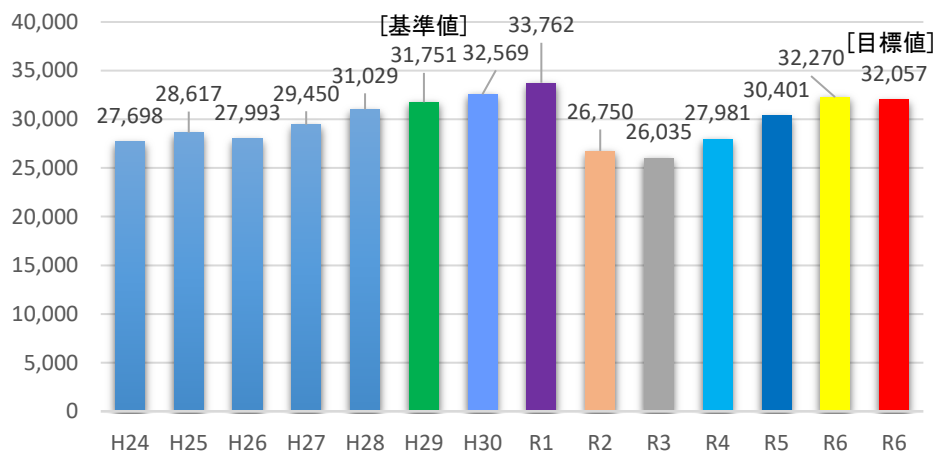
現在、実施しているフラット35活用事業の周知啓発や、空き家等の既存ストックの流通を促進する住宅施策を展開するなど、中心市街地で居住選択されるよう効果的な事業の検討・実施に努め、人口動態のさらなる増加につなげていく。

(5)「(参考指標)ことでん3駅の乗降客数」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方基本計画P110～P112参照

●調査結果と分析

ことでん3駅の乗降客数(人/日)



年	人／日
H29	31,751 (基準値)
R1	33,762
R2	26,750
R3	26,035
R4	27,981
R5	30,401
R6	32,270
R6	32,057 (目標値)

※調査方法：高松琴平電気鉄道株式会社へ聞き取り

※調査月：毎年1月1日～12月31日

(H24～H30は毎年4月1日～翌年3月31日で集計)

※調査主体：高松琴平電気鉄道株式会社

※調査対象：ことでん3駅(高松築港、片原町、瓦町)の乗降客数

〈分析内容〉

ことでん主要3駅の乗降客数は、令和2年度以降目標値を下回る状況が続いていたが、令和6年の最新値で前年比109%の32,270人となり、目標値を達成した。通勤通学による定期利用を除く乗降客数も令和4年度から増加傾向にあることから、アフターコロナで観光客数が回復したことによって乗降客数が増加していることが考えられる。

一方定期利用については、高松市においてはテレワークによる減少幅は少なかったとみられ、通勤利用客については大きな増減はないが、令和4年度以降はわずかながら増加傾向となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

5-① 高松丸亀町子育て支援施設整備事業(高松まちづくり株式会社・NPO法人わははネット)

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	再開発施設内に子育て支援施設を整備し、NPO法人による運営を行うことで子育て世代の女性が子どもを産みやすく、働きやすい環境を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 2人/日 【最新値】 (23人/日-29人/日) × 12.4% × 55.1% × 2 (往復) ≒ △ 1人/日 (目標未達成)
達成した(出来なかった)理由	子育て支援施設は令和4年2月1日に入居済みである。事業は完了しているものの、計画期間中には目標達成に至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	大工町ものづくり育成店舗整備事業によって開業した「讃岐おもちゃ美術館」と連携し、従来、中心市街地への集客が弱かった子育て世代を商店街に呼び込む効果があった。
事業の今後について	令和4年4月25日開業の「讃岐おもちゃ美術館」と連携し、相乗効果を狙う。

5-② 新県立体育館整備事業(香川県)

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【済】
事業概要	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートやMICEなど、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設としての機能を備えた体育館を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 181人/日 【最新値】 540人/日 (目標達成) 令和7年2月24日開館～令和7年3月末
達成した(出来なかった)理由	令和6年11月29日に建物が竣工。備品等の搬入など開館準備期間を経て、令和7年2月24日、香川県立アリーナとして開館。事業は完了し、計画期間中に目標達成できた。
計画終了後の状況及び事業効果	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートやMICEなど、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設として整備しており、広域圏からの誘客力向上につながっている。
事業の今後について	今後は、中四国最大級の約1万人を収容可能なメインアリーナのほか、サブアリーナ、武道施設、会議室等を備えた県立アリーナを管理運営し、コンサートやMICE、プロスポーツや大規模なスポーツ大会等の開催により、交流人口の拡大やにぎわいづくりにつなげる。

●今後の対策

「ことடன்3駅の乗降客数」については、新型コロナウイルス感染症拡大状況によって影響を受けやすく、利用客数が減少していたが、アフターコロナで人流は回復傾向となっている。

今後は、サンポート地区や商店街のにぎわい拠点施設周辺でのイベント等における渋滞緩和や、環境配慮の面からも公共交通機関の利用を促すなど、各種施策を進めていく。